

＜自己評価＞ 及び ＜公開保育＞

法人・園名		園 長 名	作成日
学校法人吾田学園・幼保連携型認定こども園あがた幼稚園		伊豆元 精一	令和5年12月22日
教育・保育要領自己評価コーディネーター		〔認証番号〕 氏名 伊豆元淳子	JH2112-013
評 価 の 記 録			
	評価者A	評価者B	評価者C
良い点	○保育者の大きな声がかきこえてこない。穏やかな空気が流れていた。○子どもの主体性を感じられる。○保育室の家具やおもちゃの色合いやディスプレイに統一感がありとても素敵な空間だと感じる。季節を感じる工夫や生活の中に美しさを感じる。絵本がたくさんあり、その紹介の仕方等参考になる点が多くあった。広いデッキは解放感があり、遊びの空間が広がり素敵だと感じた。○職員の休憩室が充実しててうらやましい。○園での体験を丁寧にドキュメンテーションとして掲示してあり、活動内容がよく分かり、保護者にも伝わりやすいと感じる。	○居心地の良い保育室だけでなく、園庭でのアート体験、挑戦できるスペース、菜園があり、冒険の森があるなど、子どもたちが自分で選んで挑戦できる日々が保障されている園であると感じた。また、子どもを中心にしながら子育て中の親子や地域の方との交流などが叶う施設で、自然に人が集いたくなる園であった。○幼保連携認定こども園教育・保育要領に則って保育をすることの実際が理解できた。全体を通して3歳未満児での対応が以上児の姿につながっているのだということに改めて学んだ。子ども一人一人に目を向けて真摯に対応していくという園の姿勢が見えた。	○0～2歳児の食事のテーブルの工夫が素晴らしいと思った。子どもの視線から見ての高さに配慮があった。○子どもたちの生活空間に園の歴史やコンセプト、大切にしているものが反映されている。○園庭や室内に仕掛けがたくさんあり、子どものみならず大人までもがワクワクする場所がたくさんある。広い園庭や室内でも保育者の大声が聞こえてこないのが驚きだった。園児の行動を温かく見守っていた。
改善点	○子どもたちが選べる遊びがたくさんあり、片付けが大変ではないかと感じた。	○振り返りがなされていると感じた。	○役割の分担や職員の配置等多くの職員の勤務態勢を把握するのは大変だと思う。それぞれの園でも苦慮していることなので共に考えていきたい。
更に期待する点	○行事のあり方について、コロナ禍での経験をふまえそれぞれの園で工夫がなされていると感じる。日常生活を丁寧にみていき、継続して日々の保育に重点を置いていく。○共に研修をしながら保育が更に楽しくなる工夫ができることを願う。	○大人同士が信頼し合って、同じ気持ちで子どもと共にいることが、子どもの環境を整えることに繋がることが実際にみて学ぶことができた。○人的環境が整うためには福利厚生をはじめとする大人の働く環境を整え、ゆとりのある気持ちで子どもと向き合えるようにする必要性を感じた。○あがた幼稚園が地域の環境とつながりながら共生していると感じた。○森の中にいるような園庭を見て、四季の移りやそれぞれの季節のありようを五感で感じられる環境作りを目指したいと感じた。○書類の整理や保育者のノンコンタクトタイム、休憩、研修の受けやすさなど、保育者が働きやすい環境も保育につながっていると感じた。※以上のような内容の継続と向上を図っていかれることを望む。	○これからも子育ての支援や、みどり豊かな自然いっぱい園庭など、育ちゆく子どもたちや保護者にとって幸せな空間が広がっていくことを望む。○ICT化について、効果的に利用できる工夫など情報交換をしていきたい。保護者への情報伝達に有効利用ができることを望む。
評価を受けて	外部の方の視点は新鮮であり、評価をうけて気づかされる点が多々あった。日常の子どもたちの姿を見ていただくことに対し、多少の不安と緊張感はあるが、日頃のありのままの姿をみて評価していただくことに意義があると感じた。外部の専門家に保育を客観的にみて頂き、率直な意見を伺うことにより、園の課題が認識でき真の保育の質の向上につながると思う。また励みになる言葉を職員間で共有することで、スタッフの意欲につながり更なる保育への熱意がみられた。また、同じ課題や悩みを抱えていることも分かり、共に考え学び合いながら進んでいこう、と勇気がわいてきた。教育・保育要領の解説書を読み返ししながら、小グループで保育内容の研修や振り返りを継続して行うことの大切さを感じた。コロナ禍では互いの園を見合って学び合う機会も限られていたが、交流することにより刺激を受け、保育のアイディアも増えていくと感じた。ICT化に関しても情報交換ができて新たな視点で保育を捉えることもできたと感じている。ICTの利用により業務の効率化を図りながら、子どもや保護者と向き合う時間を大切に、子どもも保育者もワクワクが増すような活動を行っていきたい。評価を受けることにより刺激を受け、人それぞれの思いや意見を聞くことにより、保育者自身の考え方も柔軟になると感じる。多様性を認めることは保育者には大切なことだと感じた。		

※施設関係者評価 (1)〔評価者A〕 他の乳幼児施設職員または地域の幼児教育・保育関係者

公開保育評価者 (次のいずれか) ① 共に研修に取り組む他園職員 ② 自治体こども関連職員等 ③ 地域の幼児教育・保育に長年携わっている方等

(2)〔評価者B〕 小学校等の他校種教員等による評価

(次のいずれか) ① 小学校との接続を図っている小学校職員 ② 養成校職員等

(3)〔評価者C〕 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者

(次のいずれか) ④ 地域の幼児教育アドバイザー ⑤ 教育・保育要領自己評価コーディネーター (同市町村以外の幼稚園・保育所長等)